

## 博物館だより

第73号 2009. 3. 20

## 第52回特別展「女たちと善光寺」

本年は7年に一度行なわれる善光寺ご開帳の年です。当館ではご開帳期間中、善光寺の女人救済信仰に焦点を当てた特別展『女たちと善光寺』を開催します。

期 間 平成21年4月4日(土)～5月31日(日)

(休館日：5月4日を除く毎週月曜日)

入館料 大人300円 高校生150円 小中学生100円 (常設展示室と共通)



千葉県いすみ市にある清水寺に奉納された善光寺参詣絵馬。善光寺本堂内陣でお籠りをする女性の一団が描かれている。

## 記念講演会

いずれも午後1時30分から博物館2階会議室にて

5月10日 (日)

「旅・女たちの善光寺—文芸と宗教伝承の世界から—」

阿部泰郎氏 (名古屋大学教授)

5月23日 (土)

「古代・中世における女性と仏教」

平 雅行氏 (大阪大学教授)

5月30日 (土)

「房総からの善光寺参詣」

山本光正氏 (国立歴史民俗博物館教授)



## 「女たちと善光寺」展

善光寺が多くの人々に知られるようになるのは、鎌倉時代に入ってからのことです。その大きな理由が、善光寺如来が女性を救うという話の登場です。善光寺の女人救済信仰がどのような経緯で生まれたのかは不明ですが、善光寺はこれまで仏教では救済の対象外とされてきた女性を対象とすることで、財力を持ち社会でも活躍するなどしていた当時の女性を新たな信者として受け入れました。

これに対して、実際に善光寺を訪れた女性たちは、このような仏教側の女性観にとらわれることなく、さまざまな願いをもって訪れました。

当時の女性たちは善光寺に何を求めて訪れたのか、これに対し善光寺はどのように彼女たちを迎えたのか、中世から近代にかけての女性たちの姿を通して善光寺と女性との係わりについて考えます。  
(細井雄次郎)

### 善光寺と女人救済

善光寺の阿弥陀如来が女性を救うという話は、「善光寺縁起」や「善光寺如来絵伝」のなかのいくつかの場面で見られます。月蓋長者の娘如是姫の病気を治す話。善光寺如来が日本へ渡るときにこれを悲しんだ百済の女官たちが入水し往生を遂げた話。地獄に落ちた皇極天皇を善光寺如来が救済する話などなど。このような話は絵解きや唱導を通して多くの人々に受け入れられ広まってきました。



▲地獄に落ちた女帝を救う場面  
(『善光寺如来絵伝』(満性寺蔵)より)

### 中世の女性たち

善光寺が女人救済を打ち出す頃の女性たちはどのような暮らしを送っていたのでしょうか。当時の記録や物語、あるいは絵巻物からは、経済的にも精神的にも自立した女性の姿が窺われます。<sup>うかが</sup>

一方で仏教と女性との関係を見ると、女性は僧侶の仏道修行の妨げになる存在であり、また五障三従の身であるため、死後、極楽往生ができないとされていました。そのため当時の女性は、亡くなる前に男性に姿を変じて成仏する転女変男を願ったり、人並み以上に仏道の修行を積むことによって極楽往生を追い求めました。



▲米売りと豆売り。「七十一番職人歌合」に登場する女性の職人・商人は35人にのぼる  
(『七十一番職人歌合』埼玉県歴史と民俗の博物館蔵)



◀老女を極楽へ迎える阿弥陀如来と六地藏、十羅刹女。  
わかりずらいが画面右下には頭巾をかぶって合掌する女性の姿が描かれている。  
(西寿寺蔵)



## 血盆経と女性

中世後半、室町時代頃に中国より血盆経というお経がもたらされると、女性と仏教との関係は新たな展開を迎えます。

女性は出産や月水の際に流れ出る血によって神仏を穢すため、その罪により死後必ず血の池地獄に落ちると説き、その救済方法として血盆経の読誦や所持を勧める血盆経は、それまでの日本人が持っていた血穢観と結びついて多くの人びとの間にひろまって行きましたが、それは同時に、女性への差別の固定化や、女性自身の罪業観を深める結果をもたらしました。

◀血の池地獄の上には救世主として如意輪観音が描かれる。血の池から生え出た蓮の上には血盆経らしき書物と如意輪観音によって救われた女性を描く。  
(「血の池観音図」満性寺蔵)

## 善光寺信仰を支える女性たち

近世に入ると、善光寺は江戸・京都での出開帳をはじめ、江戸時代四回の回国開帳を行うことで、その名は全国に広まるようになり、各地に善光寺を参詣する目的の講も作られるようになりました。また江戸幕府の大奥でも善光寺は信仰され、元禄5年に江戸で出開帳を行った際には、善光寺の本尊を江戸城に迎え入れ、大奥が参拝を行っています。まさに貴賤を問わず、男女の別を問わず広く衆生から信仰されていたのが善光寺です。



▲徳川幕府5代将軍綱吉の母である桂昌院が善光寺に寄進したものと伝えられる阿弥陀三尊立像  
(善光寺大勧進蔵)



◀絵馬の右側は日光東照宮が、左側には善光寺が描かれている。

房総半島のいすみ市には、善光寺に参詣した記念に奉納された絵馬が地元のお寺に多数残されている。それらの絵馬のほとんどが左図のように善光寺内陣に籠ってお参りする女性の一団を描く。絵馬からは明治大正時代、善光寺を参詣する女性の講がこの地にあったことが知られる。  
(善光寺参詣絵馬 上総清水寺蔵)



## 新収蔵資料紹介

今年度も多くの方々からさまざまな資料を寄贈いただきました。ここでは神奈川県横浜市の和泉さんからいただいた、大正から昭和後期にかけての1200点以上の絵はがきについて紹介します。

カメラは戦後になり一般にもどんどん普及していきませんが、それ以前は、絵はがきが名所や旧跡の様子を的確に伝える手段として利用されてきました。また、どこにでも送ることができるので土産物としても重宝されました。皆さんもちょっとした記念に購入した経験があるのではないのでしょうか。

寄贈された絵はがきは、長野県内の高原や旧跡を写したものが10枚程度で組みになっており、表紙がついているものもあります。明治から昭和初期の写真絵はがきは、街の変化や人々の様子を伝えてくれるため、近代史を知る上で貴重な資料です。

下の写真の絵はがきは、『観光の長野』と題さ



れた8枚組みの中の一枚で、長野市問御所（昭和通り）を写したものです。右側の建物には「まるぜん」の文字が見られます。現在と比べ、車も信号も少ないことがわかります。この他に、善光寺や戸隠のキャンプ場などの絵はがきがセットになっています。



次の絵はがきは、『白樺湖・蓼科・霧が峰』の風景を集めた12枚組みで、北八ヶ岳の横岳を写したものです。紅葉した山とそこに架かるロープウェイが見られます。

現在は、デジタルカメラや携帯電話で美しい景色も簡単に撮影でき、すぐにその情報を送ることが可能になりました。それに比べて、手紙を添えたはがきは手間がかかりますが、そのふん心がこもっている感じがします。たまには絵はがきでお便りを出してみてもいかがでしょうか。

(佐々木麻由子)

## 平成20年度寄贈・寄託・購入資料

平成20年度も多くの資料の寄贈・寄託をいただきました。厚くお礼申し上げます。（敬称略・順不同）

(寄贈資料)

軍服など	左治木祥司（三輪田町）
背負子	蔵之内廣文（宮沖）
唐箕など	クボタアート（富竹）
湯たんぽなど	宮崎紀子（上田市）
戦争資料	瀧澤史貴（真島町）
指樽など	加藤勇男（松代町）
絵葉書ほか	和泉富夫（神奈川県）
雲切目薬	笠原久美子（伊勢町）
米選機など	玉井利栄（大豆島）

三三九度盃など	久保田健司（小島田町）
下駄屋道具	宮之本弘（青木島）
写真引き伸ばし機	菅野春治郎（往生地）
祝儀帳ほか	高原英男（北堀）
自在鉤ほか	宮崎延子（西長野）
掛軸ほか	立岩亨（松代町）
下駄スケートほか	清水寛（栗田）

(寄託資料)

古文書	飯島恒弘（川中島町）
古文書	源関神社（松代町）

博物館の HP アドレス

<http://www.city.nagano.nagano.jp/museum/index.html>

長野市立博物館 〒381-2212 長野市小島田町1 4 1 4  
 戸隠地質化石博物館 〒381-4101 長野市戸隠栃原3 4 0 0  
 鬼無里ふるさと資料館 〒381-4301 長野市鬼無里和田沖・国道406号線沿い

026 (284) 9011

026 (252) 2228

026 (256) 3270